

# おはよ



兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）

神戸市中央区北長狭通5丁目2-10

兵庫県高等学校教職員組合会館内

TEL (078) 341-6745

障教組ブログ展開中！



全職員版 NO.6 2021.9.16

「笑って泣いて あったかい学びで心が充電された」(参加者感想)

「僕たちの目の前にいる子どもは、昔学校に行けなかった子どもの生まれ変わり。  
だからこそ、大切に育てていかなければ」(三木先生講演より)

## 夏の学習会 (8/29) 三木裕和先生オンライン講演会 報告 「笑い泣きの障害児教育42年 そしてこれから」

急遽オンラインに変更して、無事予定していたうちの第1部の講演会が実施できました。  
北はりま特別支援学校で、出石特別支援学校で、一緒に私たちと実践してきた三木先生。



元鳥取大学教授というえらい肩書になっても、変わらず魅力的でした。

お話は、義務制前の夜明け前の子どもたちのことから。やっと施設はできても（近江学園）学校はない。就学の年を迎えても、「お宅の子が行ける学校はない」と就学免除の書類を書くお母さんの思いから始まりました。三木先生自身、教師になるまでその歴史は知らなかったそうです。でもそこからの歩みは、まさに「子どもと保護者と仲間に育てられた（講演より）」道のり。

大江健三郎の著書「自分の木の下で」に触れながら、三木先生は「私たちの仕事には歴史的な意義がある」と唱えられました。私たちの学校も、学校に行けなかった時代の子どもや親の願い、初めて学校ができた（京都府立与謝の海養護学校）時の先生たちの一から教育を創っていく営み、その歴史と地下水脈でつながっているとされました。今の教室にいる子どもたちは、みんな大人になることができないで死んでいった子どもたちの代わりに生きているのではないか。その子どもたちが聞いて育ったそのことばをしっかりと自分のものにするために、学校に来ているのではないかと話されました。私たちの仕事は、歴史を超えた人間的な願いを受け継ぐことではないのかと。

もう少し詳しい記録は障教組ブログをご覧ください。参加者の感想を一部ですが、紹介します。  
三木先生、参加者の皆さんありがとうございました。

★教育の原点、私たちのやるべきことは何だろうか？と改めて考える機会になりました。

★笑い泣きしながら聞かせていただきました。人間らしく生きようとする子どもたちの願いに応えることが私たちの責任だというメッセージに奮い立つ思いがします。

夏の学習会で予定していた第2部「子どものこと・授業のこと話そうよ」の二つの分科会は、  
12月5日(日)に延期して実施する予定です。ご迷惑をかけて申し訳ありません。お楽しみに！

## 第2回 ZOOM 学習会 有意義な学びができました



8月7日10時半より、第2回 ZOOM 学習会が行われました。  
今回は「学校って？～不登校の生徒との関わり合いから考える～」と題し、高等部での取り組みの事例発表とそれを元に参加者で話し合いました。参加者は第1回を大きく上回り、参加の先生方の経験からたくさんの意見が出て、あっという間の2時間でした。不登校や不登校まで行かずとも心に負担を感じる子どもは、どの学校、どの学部にもいます。だからこそ、いろんな学習や研修を通して考えを深め、いろんな支援の仕方や考え方を知り、自分自身を磨き続けることが必要です。2回目も、子どもの心を考える、とてもいい学習会になりました。  
第3回もたくさんの先生方の参加をお待ちしています。



## 各地で寄宿舎指導員の採用試験再開を要望

寄宿舎は25年前から指導員の採用試験が実施されず、正規指導員が激減しました。現在、兵庫県の正規率は県視覚の38.4%が最高で、姫路聴覚(9%)や高等特別(7.6%)は一桁状態で、50%を確保している全国レベルには程遠い状態です。

これまで、組合はもちろん、校長会も何度も試験再開の申し入れをしていますが、一向に再開には至っていません。そこで事態の打開をめざし、寄宿舎プロジェクトメンバーは夏休みを利用して地元選出の県議会議員と懇談をしました。学校によっては管理職・保護者の協力も得て懇談することができ、「保護者の声、地元の声」として訴えることができました。

議員からは「兵庫県の低さは異常」「議員団として対応したい」「現場で必要な指導員数を正規として要求したい」「寄宿舎の専門性を維持するための採用形態を考えたい」などの感想や意見が出され、早速県教育委員会に働きかけをしてもらえました。これを受けて、採用試験再開に向けての課題をひとつひとつ打破するため、プロジェクトメンバーで知恵を出し合い取り組んでいます。

## 分会紹介 仲間とともにがんばっています～出石特別支援学校分会～

本年度は本校とみかた校で活動をしています。どこの学校でもそうでしょうが、本分会も以前に比べて組合員は減ってしまいましたが、本校で本年度新加入の組合員は昨年度までは中学校に勤務しており、「職場に同じ組合の仲間がいて堂々と組合の話ができる」喜びに浸っています。

みかた校では但馬支部の自治体キャラバンに参加しました。過疎地域における学校の様子、学校をめぐる住民意識などを再認識し、議論を深めることができたと思います。

また新温泉町での懇談でスクールバスの乗降場所の草刈りについてお話ししたところ、草刈りが行政によってすぐに実現したことが特筆できる成果だと思っています。



## むこがわ特別支援学校開校に向けて ～芦屋特別支援学校分会～

2022年4月に開校するむこがわ特別支援学校は、最初は小学部、中学部のみでスタートします。今年度当初から子どもや親御さんたちから次々と疑問がわきました。教職員も全く同じでした。そこで、芦屋分会では、夏休みを利用してPTA役員に説明するとともに、課題などを出し合う場を設けました。今回、芦屋校を分割するだけでなく、幼稚部のこぼと聴覚特別支援学校と合併します。また、開校後2年間は、元尼崎養護学校の校舎を使用するため、老朽化対策も必要です。期待とともに様々な不安が大きく膨らみます。学校を変える子どもや先生も、また残る人も、共に笑顔で次の4月を迎えられるよう、分会で要求をまとめ、改善を申し入れたいと考えています。